



地域と結ぶ情報誌

ちゅうごくしこく

第9号

編集・発行

中国四国防衛局 総務部

〒730-0012

広島市中区上八丁堀6-30

電話 082 - 223-7109

## 岩国飛行場新滑走路運用開始



岩国飛行場滑走路移設事業の新滑走路完成に伴う新滑走路運用開始式が5月29日に行われました。式典には榛葉防衛副大臣をはじめ、ルース駐日米国大使、福田岩国市長ら関係者が出席し、テープカットの後、岩国基地所属のF/A-18D戦闘攻撃機と海上自衛隊のUP-3D多目的支援機がそれぞれ着陸し、運用を開始しました。

新滑走路の運用に必要な滑走路、管制塔や航空保安施設等は3月下旬に完成し、4月下旬からデジタル式空港監視レーダー、航法援助無線施設、精密進入レーダー、航空灯火などの航空関連施設の検査と米連邦航空局による飛行検査が行われました。

事業完成は、平成22年度末頃の見込みですが、騒音の軽減等の目的を早期に達成するため、新滑走路の運用を5月29日からとしたもので、現在、平成22年度末の事業完成に向け、西側誘導路及び北側連絡誘導路等の整備を進めているところです。

# 岩国飛行場滑走路移設事業

## 事業の目的

岩国飛行場の北側進入表面下には、「石油コンビナート等災害防止法」の規定により特別防災区域に指定された工場群があり、航空機は離陸後1マイル以内での旋回を余儀なくされ、同飛行場の運用上および安全の確保上大きな制約を受けています。また、同飛行場には市街地が近接し、騒音問題が生じています。

このため、昭和46年以降地元岩国市等から同飛行場周辺における安全の確保と航空機騒音の緩和を図るため、同飛行場を沖合移設するよう国に対して強い要望がありました。

このような状況から当局は、同飛行場の運用上、安全上および騒音上の諸問題を解決し、米軍の駐留を円滑にするとともに、同飛行場の安定的使用を図るため、滑走路を東側(沖合)へ1,000m移設することとし、本事業を行ったものです。

## 事業の概要

### ○敷地造成

埋立規模：約213ha  
埋立土量：約2,095万<sup>m</sup>

### ○飛行場施設

滑走路：長さ2,440m×幅60m  
平行誘導路・連絡誘導路、航空灯火  
航空保安無線施設、管制塔、管理棟、消防署等

### ○飛行場関連施設

管理施設、補給施設等

### ○予算規模

総事業費：約2,500億円  
工期：平成8年度から平成22年度まで



平成12年5月



平成19年9月



平成22年5月

## 高知駐屯地開設



高知駐屯地は、県庁所在地である高知市から東部約25キロメートルの地点に位置しています。

同駐屯地が所在する香南市は、南部地域は太平洋に面する自然豊かな景観の海岸部と東西に広がる肥沃な平野部、中部地域は低山が連なる中に里山環境が広がり、北部地域は標高300から600メートルの四国山地の一部を構成しています。これらの山々を源流とする物部川や夜須川などが流れる水と緑が豊かな地域です。



3月24日、陸上自衛隊第50普通科連隊の移駐記念式典が香南市香我美庁舎で行われ、式典終了後、隊員約300人が小銃を携行した迷彩服姿で同庁舎から少し離れたJAとさかみ香我美支所から駐屯地までの県道を行進し、沿道の大勢の市民から歓迎されました。

3月28日、陸上自衛隊第50普通科連隊が移駐した高知駐屯地の開設記念式典が香南市香我美町の同駐屯地で開かれ、隊員や車両による観閲行進や戦闘機の祝賀飛行などが行われました。

同連隊は、第14旅団（香川県善通寺市）の基幹部隊として、四国の防衛警備や派遣災害などに対応すべく2006年3月に編成され、定員は約700人です。



## 国際協力シンポジウム 「世界の中の日本の役割－災害復興と国際貢献－」



5月30日、広島市中国新聞ホールにおいて、「世界の中の日本の役割－災害復興と国際貢献－」をテーマに国際協力シンポジウムを開催しました。

最初に基調講演があり、陸上自衛隊第13後方支援隊長白川1等陸佐からは「ハイチ大地震における自衛隊派遣部隊の活動」について、22日間で2,954人の治療を実施し、JICAから自衛隊、日本赤十字社へと「日本チーム」として切れ目なく活動ができたなど、自衛隊の国際緊急援助隊の活動の報告がありました。

次に、特定非営利活動法人アムダ菅波代表からは「ハイチ大地震における国際協力活動の意義」について、市民参加型人道支援外交の必要性や、今回のハイチ大地震のように自衛隊や日本のNGO（非政府組織）が支援活動を行うことにより、世界での日本の評価が高まるなどの報告がありました。

続いて、中村中国四国防衛局長、特定非営利活動法人アムダ菅波代表、平川広島大学大学院国際協力研究科准教授をパネリストに招き、中国新聞社の里田記者がコーディネーターを務めシンポジウムが行われました。

中村局長からは、自衛隊には組織力、訓練の蓄積があり、派遣先で自己完結能力を生かした国際緊急援助が展開できる、また、菅波代表からは、NGOは相手国の要請が無くとも迅速に活動できるが、重機などを必要とする大がかりな活動が不得意である、更に、平川准教授からは、自衛隊と民間の協力するための窓口が必要であるなどの意見が交わされ、今後の日本の果たすべき役割や官民連携の必要性を探りました。

参加した方からは、「災害派遣には官民の連携が必要と感じた」、「国際貢献した官民の現場の声が聞けたのが良かった」などの感想が聞かれました。

また、国際シンポジウムの内容については、後日、中国新聞紙面で特集記事が生まれ、幅広い層の方々に伝えることができました。

## 岩国市岩国学校給食センター完成



中学生の身心の健全な発達及び食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で、重要な役割を果たしている学校での食育教育、並びに周辺住民の利便性の向上などに寄与することを目的とした「岩国市岩国学校給食センター」が完成しました。

本施設は、総工費約6億5千万円のうち約6億2千5百万円の再編交付金が使われ、また、再編交付金を活用した基金を設立し円滑な管理運営に当たることになっています。

施設概要：敷地面積 6,400.10㎡、床面積 1,766.48㎡、構造 鉄骨造平屋建  
調理能力 3,000食/日、給食開始 平成22年9月

## 和木町立和木中学校校舎完成



和木町は、平成13年に発生した芸予地震の経験を踏まえ学校施設の耐震化の重要性を鑑みて、中学校の生徒達の安心・安全を確保し、快適な教育環境を整備するために校舎の改築工事を平成20年度から着手し、この度待望の新校舎が完成しました。

本施設は、総工費10億4千8百万円のうち約1億百万円の再編交付金が、また、航空機騒音の対策のための防音工事費として約8千8百万円が使われています。

施設概要：建築面積 2,104㎡、延床面積 5,087㎡、構造 鉄筋コンクリート造3階建

## ソルトアリーナ防府（防府市体育館）完成



防衛施設の設置又は運用による阻害を緩和するため、防府市民の屋外活動やレクリエーションの場として、民生の安定に寄与することを目的として整備を進めていた体育館が完成しました。

本施設は、防衛施設周辺的生活環境の整備等に関する法律に基づき、総工費約30億9千4百万円のうち約3億6千9百万円の一般助成補助金が使われています。

施設概要：建築面積 7,537.33㎡、延床面積 11,433.22㎡

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）

階数 2階建（一部3階建）

## 「善通寺五岳の里」市民集いの丘公園完成



防衛施設の設置又は運用による阻害を緩和するため、市民の方々が自然とふれあいながら学べるレクリエーションの場として、善通寺市民の生活の安定に寄与することを目的として整備を進めていた『「善通寺五岳の里」市民集いの丘公園』が完成しました。

本施設は、防衛施設周辺的生活環境の整備等に関する法律に基づき、総工費約11億5千万円のうち約5億8千万円の一般助成補助金が使われています。

施設概要：公園面積 約4ha

建物 研修棟・体験学習棟 892.96㎡

植栽 高木 約340本、中低木 約17,990本、地被類 約95,970本



## 米子駐屯地覆道式射場完成



米子駐屯地の米子射撃場は、鳥取県米子市の弓ヶ浜半島に所在し、昭和28年から露天式射撃場として使用されてきましたが、周辺の宅地造成等による開発に伴い訓練時の射撃騒音が問題視されはじめ、地元からの要望などもあったことから、防音対策も兼ねた覆道式射場として新たに整備されることになりました。

新しい射場の工事は、平成20年8月から平成22年3月までの間行われ、鉄筋コンクリート造平屋建、建築面積約11,000㎡で13mから300mまでの五つの距離の射座と10の的数を持ち、弾道が検出できる最新の射撃評価システムを備えた覆道式射場として生まれ変わりました。

今後は、同駐屯地所在各部隊をはじめ、航空自衛隊美保基地所在各部隊等の射撃訓練施設として運用されていくこととなります。

## 広報活動



### 《防災フェスタ in 物部川 2010》

日時：6月6日（日）

場所：高知県南国市（物部川河川敷）

高知県地域防災フェスティバルが高知県南国市において開催され、中国四国防衛局としてブースを設け、パネル展示を行い“自衛隊の災害派遣～ハイチ共和国における災害復興支援～”をテーマに防衛問題ミニセミナーを開催すると共に、テレビを設置し、国内における自衛隊の災害派遣の活動状況について紹介しました。

当日は総合防災訓練も併せて実施されていたので、家族連れの方を中心に多くの方が来場されており、当局の展示ブースにてパネルをご覧になった方からは、自衛隊が海外でこのような活動をしているとは知らなかった、自衛隊の活動をもっと広く広報して欲しい等のご意見をいただきました。

平成22年度

## 防衛省職員採用Ⅲ種試験

## ●試験の概要

試験の程度	高校卒業程度 [行政職俸給表(一)1級の係員を採用するための試験]
試験区分	一般事務、電気、機械、土木、建築
受験資格	平成元年4月2日～平成5年4月1日生まれの者
受付期間	<b>7月1日(木)～7月20日(火)</b> [郵送]7月1日(木)～7月20日(火) ※7月20日消印有効 [持参]7月16日(金)・7月20日(火)の2日間 ※受付時間9時～17時
第1次試験日	<b>9月26日(日)</b> [試験地]米子市、広島市、防府市、善通寺市、松山市 他 ○受験に便利な試験地を1つ選んでください。 ○試験場は、受験票で通知します。
第1次合格者発表日	10月18日(月) 午前9時
第2次試験日	10月下旬
最終合格者発表日	11月19日(金) 午前9時

採用試験の詳細情報はホームページをご覧ください

## ■防衛省ホームページ

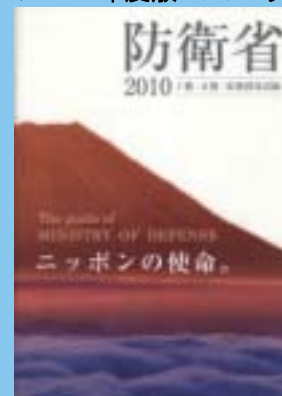
(URL) <http://www.mod.go.jp/>

## ■中国四国防衛局ホームページ

(URL) <http://www.mod.go.jp/rdb/chushi/>

受験案内・申込用紙及びパンフレットの請求、  
また、お問い合わせ等は下記までお願いします

▼2010年度版パンフレット



中国四国防衛局 総務部総務課人事係

〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀6-30

広島合同庁舎4号館7階 TEL:082-223-7105